目　次

第１講　文学史①（上代・中古）	p２
第２講　文学史②（中世・近世）	p10
第３講　文学史③（近代・現代）	p34
第４講　宗教史	p60
第５講　美術史	p81
第６講　教育史	p100

第１講　文学史①（上代（じょうだい）・中古（ちゅうこ））

１　古墳～天平（てんぴょう）文化（上代）

①古墳文化の神話・伝承形成（６世紀半ば，欽明（きんめい）朝？）

Ａ　**『帝紀（ていき）』**

神武（じんむ）天皇以降の大王の系譜。

Ｂ　**『旧辞（きゅうじ）』**

朝廷の説話・伝承。

②飛鳥文化の学問（７世紀前半）

Ａ　**三経義疏（さんぎょうのぎしょ）**〔法華経・勝鬘経（しょうまんきょう）・維摩経（ゆいまきょう）〕

聖徳太子が著した？経典の注釈書。

Ｂ　**『天皇記』『国記』**（620年）

聖徳太子と蘇我馬子が共同で編纂した歴史書。645年，蘇我氏の滅亡と共に焼失。

③白鳳文化の文学（７世紀後半）

Ａ　**漢詩**〔からうた〕

大友皇子，大津皇子らの作品が，奈良時代の『懐風藻（かいふうそう）』に収められる。

Ｂ　**和歌**〔やまとうた〕

有間皇子，持統天皇ら皇族，**額田王（ぬかたのおおきみ）**，**柿本人麻呂（かきのもとのひとまろ）**，山部赤人（やまべのあかひと）ら宮廷歌人の作品が，奈良時代の『万葉集』に収められる。

④天平文化の歴史・地誌（８世紀前半）

A　**古事記**（**712年**，**稗田阿礼**（ひえだのあれ）の暗誦（あんしょう）をもとに**太安万侶**（おおのやすまろ）が編纂し元明天皇に献上）
『帝紀』『旧辞』の誤りを正し，氏姓の尊卑（そんぴ）に基づく社会制度の確立を意図。**神代**（じんだい）**～推古天皇**を漢字の音訓を用い**紀伝体**で３巻に収録した，**最古の歴史書**。

B　**日本書紀**（**720年**，**舎人親王**（とねり）らが編纂し元正天皇に献上）
皇室による国家統治の正当性を証明し，国家の威容（いよう）を誇示（こじ）する**正史**（せいし）として編纂。『帝紀』『旧辞』などを参考に**神代～持統天皇**を**正式の漢文編年体**で30巻＋系図１巻に収録した，**六国史**（りっこくし）**のはじめ**。
☆**六国史**　⇒**日本書紀**，**続日本紀**（しょくにほんぎ）（文武～桓武天皇を藤原継縄（つぐただ）らが編纂），**日本後紀**（にほんこうき）（桓武～淳和（じゅんな）天皇を藤原緒嗣（おつぐ）らが編纂），**続日本後紀**（しょくにほんこうき）（仁明（にんみょう）天皇一代を藤原良房らが編纂），**日本文徳天皇実録**（もんとく）（文徳天皇一代を藤原基経（もとつね）らが編纂），**日本三代実録**（清和・陽成（ようぜい）・光孝（こうこう）天皇三代を藤原時平らが編纂）
☆**類聚国史**（るいじゅうこくし）⇒六国史の記事を事項別に分類し，年代順に配列したもの。菅原道真（すがわらのみちざね）の編纂。

C　**風土記**（ふどき）（**713年**，元明天皇の命により，**各国の物産・地理・伝説を国司が編纂**）
五風土記（**出雲**（いずも）・常陸（ひたち）・播磨（はりま）・豊後（ぶんご）・肥前（ひぜん））が残存，うち出雲国のみ完本。

⑤天平文化の文芸（８世紀後半）

A　**懐風藻**（かいふうそう）（751年）
最古の漢詩集，長屋王・**淡海三船**（おうみのみふね）・**石上宅嗣**（いそのかみのやかつぐ）らが当時の代表的詩人。

B　**万葉集**（８世紀後半）⇒**万葉仮名**を使用，雑歌（ぞうか）・相聞歌（そうもんか）・挽歌（ばんか）
約4500首を20巻に収める**最古の和歌集**，素朴で力強い**万葉調**〔ますらをぶり〕。
☆天皇〔大王〕から**東歌**（あずまうた）・**防人歌**（さきもりのうた）など地方農民の歌まで幅広く収録，当時の政治・社会を知る大きな手掛かり。
☆当時の代表的歌人は山部赤人（やまべのあかひと），山上憶良（やまのうえのおくら），大伴旅人（おおとものたびと），大伴坂上郎女（さかのうえのいらつめ），**大伴家持**（やかもち）ら。

２　弘仁・貞観〜院政期の文化（中古）

①弘仁・貞観文化の文芸（９世紀）

上級貴族の教養として，漢文学・歴史学習（＝紀伝道）が流行。重要な出世の手段ともなり，文人官僚を生んだ。

☆代表的漢詩作家は嵯峨天皇，空海，小野篁，都良香，菅原道真ら。

A　**勅撰漢詩集**⇒文芸を中心に国家の隆盛を目指す（＝**文章経国**思想）

あ　**凌雲集**　　**（嵯峨天皇）**→小野岑守・菅原清公らが編集

い　**文華秀麗集（嵯峨天皇）**→藤原冬嗣・菅原清公らが編集

う　**経国集**　　（淳和天皇）→良岑安世らが編集

B　**漢詩集**

あ　**性霊集**　　**（空海）**

い　**菅家文草**　**（菅原道真）**

う　菅家後集　（菅原道真）

C　漢詩論

文鏡秘府論　　（空海）

☆最古の評論。

D　**説話集**

日本霊異記　　**（景戒）**

☆**最古の説話集。**

E　歴史書

あ　『続日本紀』以下の「六国史」が完成

い　**『類聚国史』（菅原道真）**

☆「六国史」の記事を分類したもの。

F　**かな文字〔仮名文字〕**の登場

９世紀に入り，万葉がなの草書体（**草がな**〔草体がな〕）を簡略化した**平がな**や，漢字の一部分を採った片かなが用いられ始めた。

☆藤原有年申文（讃岐国の国司，867年）は，草がなから平がなへの変化を示す好例。

☆僧正遍昭，在原業平，小野小町，喜撰法師，文屋康秀，大友黒主は，六歌仙（９世紀後半の和歌６名手）として有名。

②国風文化の文芸（10～11世紀前半）

A　**かな文字の発達**

日本人特有の内面的感情・感覚の表現が可能となり，国文学の隆盛をもたらす。

☆10世紀までに，『いろは歌』や五十音図が成立したとされる。

B　詩歌⇒和歌が漢詩と並ぶ地位を確立

あ　**古今和歌集**（905年，**醍醐天皇**）

万葉集以降～当代の約1100首を20巻に収める**初の勅撰和歌集**で，**八代集**のはじめ。繊細で技巧的な**古今調**〔たをやめぶり〕。**紀貫之**・紀友則・凡河内躬恒・壬生忠岑が編纂。紀貫之の**仮名序**はわが国最古の歌論。

☆**八代集**⇒古今・後撰・拾遺・後拾遺・金葉・詞花・千載・新古今と続く８勅撰和歌集。

い　**和漢朗詠集**

藤原公任が編纂した，朗詠に適した和漢の詩歌集。

う　本朝文粋

『明衡往来』（最古の往来物）の著者でもある藤原明衡が編纂した漢詩集。

C　物語

あ　９世紀末～10世紀前半

竹取物語　（伝奇物語）

☆かぐや姫を主人公とする**最古の物語**。

伊勢物語　（歌物語）

☆在原業平を主人公とする**最古の歌物語**。

い　10世紀後半

宇津保物語（伝奇物語）

☆竹取物語⇒源氏物語への過渡的な存在。

落窪物語　（伝奇物語）

☆継子物語の先駆。

う　11世紀初め

源氏物語　　（**紫式部**，全54帖）

☆前編は**光源氏**，後編の宇治十帖はその子薫大将を主人公とする物語文学の最高峰。**国際的評価も極めて高い。**

栄花（華）物語（赤染衛門ら）

☆藤原氏全盛期を**賞賛的に，編年体で描く**歴史物語。

D　日記文学

あ　10世紀

土佐日記　　　**（紀貫之）**

☆女性に仮託して書かれた**最古のかな日記**。

蜻蛉日記　　　**（藤原道綱の母）**

☆一夫多妻制の貴族社会における女性の苦悩を描く**最古の女流日記**。

い　11世紀前半

和泉式部日記　（和泉式部）

紫式部日記　　**（紫式部）**

☆**紫式部は一条天皇の中宮である彰子**〔上東門院〕**に仕えた。**

う　11世紀半ば

更級日記　　　**（菅原孝標の女）**

E　随筆

枕草子　　　　　**（清少納言）**⇒最古の随筆

☆**清少納言は一条天皇の中宮（のち皇后）である定子に仕えた。**

F　百科事典

倭名類聚抄〔倭名抄〕（源 順）⇒最古の百科事典

③院政期の文芸（11世紀末～12世紀半ば）

A　**説話集**

今昔物語集

☆天竺・震旦・日本〔インド・中国・日本〕の1000余りの説話を，和漢混淆文で記す。

B　**軍記物語**

当時の皇族・貴族が，地方の動きや武士・庶民の姿に関心をもっていたことを示す戦記。

あ　**将門記**

☆**平将門の乱**（939年～）を漢文体で記した，**初の軍記物語**。

い　**陸奥話記**

☆**前九年の役**（1051年～）を，日本的漢文体で記す。

C　**歴史物語**

あ　**大鏡**〔世継物語〕

☆藤原氏全盛期を**批判的に**，**紀伝体**で描く。「四鏡」（大鏡・今鏡・水鏡・増鏡）のはじめ。

い　今鏡

☆おもに院政期を描く。

D　仏教史書

扶桑略記（皇円）

☆司馬達等（鞍作鳥の祖父）らによる仏教私伝についての記述で有名。

E　歴史書

本朝世紀（藤原通憲〔信西〕）

☆鳥羽上皇の命により六国史を継ぐ目的で編纂されたが，未定稿に終わる。

④院政期の芸能（11世紀末～12世紀半ば）

A　**今様**

現代風の民間の流行歌謡。男装の女性が今様を歌いながら舞う白拍子も流行。

☆**後白河上皇が『梁塵秘抄』**を編纂。

B　**催馬楽**

神事の神楽や日本古来の民謡･和歌を唐楽風に編曲。10世紀ごろに始まり，皇族・貴族に愛好される。

C　傀儡

歌に合わせ操り人形を躍らせる芸。

D　朗詠

和漢の秀句（とくに漢詩文）を訓読で吟じる。

E　**田楽**

民間の農作業にともなう労働歌舞。しだいに芸能化し，貴族の間で流行。

☆大江匡房の『洛陽田楽記』にある永長の大田楽（1096年）が有名。

F　**猿楽**

滑稽を主とした雑芸や歌曲。奈良時代に伝来した散楽から発展したとされる。

☆京の猿楽興行の様子などを記した往来物に藤原明衡の『新猿楽記』がある。

〈***Note***〉